
甘い恋は19歳

ナツ。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

甘い恋は19歳

【Nコード】

N6734Q

【作者名】

ナツ。

【あらすじ】

元ヤン彼氏とあまゝい恋・・・
彼女美鈴のために喧嘩を封印した彼氏翔・・・
その二人の運命は？

私は田中 たなか 美鈴 みすず 18歳。

中1のころから付き合ってるイケメンちよい元ヤン彼氏がいる。

でも私と付き合ってから変わったんだよっ

その名は・・・加藤 かとう 翔 しょう 19歳。

喧嘩早くて迷惑ばっかかける翔だけど一番私を愛してくれてる人？
そんな私たちは今みんな海にいるの！だって夏だよ？楽しまなき
や！！

で。私の親友の咲 さき は翔のヤン友のひろき！

ひろきもなかなかのイケメン！でも翔のがかつこいいよ？

翔はすぐ嫉妬しちゃうから大変なの^^；

今日は思いつきりビキニで来ちゃったw^

でも翔は素直じゃないから褒めてくれない。。

でもいいの！！私と翔の気持ちは同じだから！

海から帰ってきたらなぜか翔がうちにいる・・・

「なんであんたがうちにくるの！！」

「いいじゃん！オレだって明日仕事あるし」

そう。翔は19歳だから、大学いかないで仕事してるの。

私は高3だから高校にはバイクで送り迎え！お嬢様気分w^

「なあもうオレお前と同棲したいけど」

「高校卒業したらね！」

「えゝいいじゃんお前どうせ一人暮らしだろ？」

そう。私は両親が沖縄にいるから一人暮らし。。

「ダゝメ！でもいつでも泊まりに来ていいからね！」

「ん？そうか。じゃあ今日泊まるわw^」

「あゝ、うん。わかった」

「そう言えばさお前卒業後どうすんの？」

「バイトしよっかなあゝって・・・」

「ダメだ！オレがもう働いているんだから！」

「あ。うん、わかった・・・」

次の日・・・

「じゃあ学校がんばれよ！バイバーイ」

はあゝ昨日は疲れたあ・・・ふう・・・

「さきゝオハヨゝ」

「あれえゝみすずゝ？昨日翔君となんかあったでしょ？」

鋭っ！！そんなこと聞かないでほしいよあゝ

「な、なんで？」

「目の下にクマが・・・いつもないのに！ねてないんじゃない？まあいいけど！」

ガラガラっ

「よゝし席につけよゝ！卒業式まであと1ヶ月だからなゝ気を抜くなゝ」

・・・ウゼえ・・・朝からこんな話しないでよねえ！

「よゝし！今日のホームルーム終わり！帰りにやらかしたりすんなよゝ」

ああゝダルゝ疲れたあ・・・

「ただいまあゝしょあゝ？帰ってないのお？」

「おっお帰り♪今日は早くあがらしてもらった！」

「え・・・？なんで!？」

「今日は大事な日だから」

「しょうも私も誕生日とか記念日じゃないよ？」

「これからだよ。大事な日にするのは・・・」

「え・・・？どうゆうこと？」

「美鈴。オレはお前のことを本気で好きだ。美鈴が高校を卒業したら・・・」

「えっ！あの・・・ちよつとまって・・・」

「したら・・・オレは同棲しようと考えてる。それは前から知ってるよな？」

「う、うん・・・それがどうしたの？」

「そのときはオレはお前にプロポーズをする。今はその仮版だ。うけてくれるか？」

「う・・・ん・・・」

「どうした？イヤか？」

「ううん。なんか複雑な気持ち・・・」

「ゆっくりでいいよ今日はその話がしたかったんだ」

「そっか。今日泊まってくんではよ？」

「いや、いきなりでびっくりしてると思うから今日は帰るよ。あしたいつもの時間に来るからね」

「わかった」

「じゃあな」

ボタンっ

しよ・・・う？あんな翔はじめて・・・かつこいい・・・楽しみだなあ・・・

「美鈴オハヨっ」

「オッハーじゃあ行こっ」

「昨日のことだけど・・・楽しみにしてるねっ」

「あ、おう！まっつけ！」

なんか無邪気・・・かわいっ

「よしおはよう！明日は卒業式だ！先生が泣いても引くんじゃないぞ！」

次の日・・・

「みつすずちゃん！晴れの卒業式！俺も行くからなあ」

「なにそのテンション？なんか怖い」

「なんだよ！いいじゃん！ほれ！メットかぶれ！行くぞ！」

「我々は今日にて卒業しますっ！？」

「っ！ヒック・・・うう・・・」

「泣くなっ！もう終わったんだぞ？これから晴れて同棲生活だ」
「っ！わかった！ヒック！泣かない」

「ブオ〜！」

「ついたぞ！ここが俺らの新居だ！」

「きれいなところ、気に入ったあ」

「じゃあ荷物まとめて！ケータイショップ行くぞ！」

「え？なんで？」

「俺らは今日から婚約者！ケータイかえるんだよ！」

「そういうことね！私、ピンクがいい〜」

「まあまあ・・・おちつけて（笑）」

「だってえ〜あつ！ねえ〜これはどう？翔どうせ黒でしょ？」

「まあそうだが、・・・そうだな！これにするか！！」

「すいませ〜ん！コレ、くださ〜い」

「コレ、かわいい〜気に入ったあ〜」

「しょう〜コレ、すっごい気に入ったあ！ありがと？」

「おお！それはよかったよ！さてと・・・そろそろ行くぞ〜！」

「えっ？どこに？」

「おしえねーよ！ホレ、乗れよ」

「う、うん・・・」

「さあ〜レッツゴー！」

「ブォーン・・・」

「さあ！ついたぞ！」

「え・・・ココって・・・都内の高級レストランじゃん！！」

「ああ、そうだよ！！さっさと行くぞ！」

「あ・・・うん！」

「こんなところ来て、翔大丈夫かなあ・・・？」

「・・・わあ〜すっごい！！大人っぽ〜い。

「ねえ、しょう？」

「なに？美鈴」

「なんでこんなところに？」

「いいから！ここでは大人っぽくしろよ？」

「うん」

「うわゝ料理激ウマっ幸せ」

「・・・美鈴。」

「なに？しょう」

「予告通りだよ美鈴。」

「えっ！？まさか・・・」

「そうだよ。美鈴。オレと結婚してくれ。」

「・・・え・・・あ・・・え」と

「落ちついてこうなるとは思ってたし。返事は？」

「はい！！喜んでお受けします！」

「よかった。・・・コレ・・・」

指輪・・・ダイヤモンド・・・キレイだなあ・・・

「あ、ありがとう」

「うわあ・・・夢のようだよ翔・・・」

「キレイだよ・・・美鈴。」

「じゃあ明日翔の両親に挨拶しに行こっ！」

「おう！じゃあ今日は帰ろうぜ！俺はもう喧嘩しねえからな！安心しろ！」

「うん！！」

「ねえ・・・美鈴、抱いていい？」

「うん・・・いいよ」

「明日にそなえて激しくはしねえからな！」

「っ！！ん・・・」

その晩は甘いキスで幕を閉じた・・・

次の日・・・

よしっ！！！！今日はビシッと決めて結婚のOKもらわないと！！！！
化粧は濃くしないで、大人っぽく。

「おい美鈴！今日はお前の両親と合同でやるからな！」

「えっ！？そうなの？きいてないしいゝ」

「わりいな（笑）もう連絡ついてるからよ！」

と言って甘いキスをした・・・

「久しぶり！おかあさん！お父さん」

「あらゝ美鈴ゝ翔くん久しぶりじゃない」

「ご無沙汰してます！」

「お義母さん、お義父さん美鈴です。お久しぶりです」

「おおゝ美鈴ちゃんかあ久しぶりだね！またかわいくなつたなあゝ翔にはもつたいない」

「親父！そんなことはいいから！今日は大事な話があつてよんだんだから」

「そうだったね」

「いい家族だなあホントに・・・」

「とりあえず・・・お義父さん、お義母さん、お袋、親父」

「なんだよ！そんなまじめに！！翔くん堅苦しいな」

「僕たち結婚したいんです！！おねがいします」

「そうか・・・翔・・・なんとなくわかっていたよ」

「親父・・・」

「わしらは賛成だぞ。でも美鈴ちゃんのご両親は・・・」

「私たちも大賛成よ！結婚なさい！」

「まで！」

「お父さん？」

お父さんの顔が硬くなった・・・

「私はそのことについての条件がある！！」

「なんでしようか・・・？」

「しっかりと美鈴をまもってくれ！！絶対手放さないと約束してくれ」

「当たり前です！！しっかりと美鈴さんを守ります！」

「おおそうか。そしたら安心だよ、結婚しなさい」

さつきまで硬かった顔が一気に笑顔になった。

「「ありがとうございます」」

「美鈴ちゃん・・・」

「はい！」

「しょうは頼りないところがあるからしっかり支えてあげてね」

「お袋！そんな言い方ないだろ！」

わぁ・・・頼りがいのありそうなお義母さん・・・

「はい！」

緊張がぜんぜん和らがない・・・

「よし！しょう！美鈴ちゃん！これからみんなでご飯でも行こう」

「結婚を祝おう！！！」

「親父！まだ日取りも決めてないのに！！！」

「いいですねえ！行きましようか！！！」

みんな乗っちゃってるし・・・

「「かんぱい！」」

「美鈴ちゃんのようなきれいな嫁さんもらうなんて」

「なんだよ親父」

親父・・・酔ってるな・・・

「おじちゃん、うらやましい」

「親父にはお袋がいるだろ！美鈴はオレのもん！！！」

「美鈴も」

「えっ？なにお母さん」

なんかみんなテンション高すぎ・・・

「翔君みたいになかつこいい人と結婚なんて」

いいでしょ！！wwそういいたいけどやめた！！

「おとうさんが寂しそうだよお？」

つてごまかした・・・

「「日取り決まったらおしえなさいよ」」

うわっ！！ハモってるし・・・

「「なにはもってんの！！！」」

またハモった・・・

「あんたたちもでしょ」

だってLove02だし！

「じゃあな～日取り早く決めろよ」

一週間後・・・

「美鈴～いつがいいかあ？結婚式」

「う～ん・・・大安の日でえ・・・」

「いつがいいんだろおな・・・」

「じゃあ7月にしようか・・・」

「いいね!!」

「ハワイでやろうぜ!!」

「え・・・？ハワイ？なんで!？」

とか言つときながらハワイ・・・いいかもお（照）

「海きれいだしよおいだろ？」

「うん！でもお金が・・・」

うん・・・そう。お金ないから無理じゃん・・・（汗）

「心配すんな！このときのために貯金したんだ」

おお！頼りある～

「じゃあ招待状出しに行こう!!」

「おう!!」

数日後・・・

プルプルっ

「はい。あつ！お母さん!!」

『招待状届いたよ!!ハワイなんてすごいねえ行くからね!』

「ありがとっ」

そして7月・・・結婚式・・・

キンコンッ

「おめでと～二人とも」

「お幸せにい～」

すっごく幸せ！

サイコー

「絶対別れないもんね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6734q/>

甘い恋は19歳

2011年10月8日17時22分発行